

教科【社会】・種目【歴史的分野】

書名 項目	新しい社会 歴史	2 東 書
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きを1時間単位とし、導入資料、学習課題、本文、「チェック&トライ」で構成されている。また、小学校の学習事項が年表に位置付けられている。 ○本文中に登場する語句と、その語句に関連する写真資料や地図に同じ色合いの番号が振ってあり、本文を読みつつ資料をスムーズに確認できるようになっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ページ左下にその学習項目の年代を示し、どの時代の学習をしているのかを明確に示すことで日本史・世界史の横断的な見方・考え方を養うことができるようにしている。 ○各ページにある「見方・考え方」を考察する見出しを「時期や年代」「推移」「比較」「相互の関連」「現在とのつながり」に分類分けして、様々な視点からの考察ができるようになっている。 ○各章の「まとめの活動」にくらげチャート、Xチャート、ウェビングマップなどの思考ツールを用いたページを設定し、思考の過程を視覚的に捉えることができるようになっている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各章、各節の巻頭に探究課題（ステップ）を設定し、それぞれの章や節で何を学ぶのかの見通しを立てることができるようになっている。 ○生徒キャラクターの会話で、生徒が探究課題を主体的に解決するヒントが示されている。 ○社会科の各分野（地理・歴史・公民）や他教科との関連を示すマークを設け、学習している内容が他分野でも生かせることを明確にしている。また、他教科の教科書紙面も参照できるようにしている。 ○各時代の導入に小学校の振り返りと小集団の協働的な活動が設けられ、単元全体を貫く「探究課題」を立てて、学習に見通しをもたせるように工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○模式図や復元図は前回と比べ、俯瞰視点のものが増え、より空間的な理解をすることができるようになっている。 ○本文の字数量を減らし写真資料などが大きく表示されるようになり、細かな部位まで観察することができるようになっている。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○本文のふりがなの文字濃度を濃くして、本文が読みやすいようになっている。 ○資料には、見開きで通し番号が付けられ、本文の関連個所にも同じ番号が付けられている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○多面的・多角的な視点から社会的事象を捉える工夫を多く取り入れ、生徒の思考力・判断力・表現力の育成が図りやすくなっている。 ○コラムのページや調べ学習のページを多く取り入れ、生徒の興味・関心を引き出し、地域学習や探究活動に取り組みやすくなっている。 ○教科書全体を「環境・エネルギー」「人権・平和」「伝統・文化」「防災・安全」「情報・技術」の5つのテーマで貫き、現代的な諸課題を意識しながら学習を進めることができるように配慮されている。 	

教科【社会】・種目【歴史的分野】

書名 項目	中学社会 歴史 未来をひらく	17 教出
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きを1単位時間とし、本文、資料、学習活動で構成されている。各ページ末尾の「確認」で重要語句の内容確認や特徴などを抜き出し、「表現」で学習課題にせまる言語活動（記述）を行うことで、基礎的な知識の確認とそれらを用いて考察する応用的な活動の両面から、学習内容の理解を深めることができる。 ○学習テーマの上に時代区分が並べられており、その時間の学習内容がどの時代区分に当たるものなのかが明確に分かるようになっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各章末尾の「学習のまとめと表現」では見開きページで年表による問題を掲載し、その章の歴史的事象の流れや関連をつかめるようになっている。 ○各節の末尾に「○節をとらえる」という見出しで、節全体の学習課題の解決にせまるための語句を生徒それぞれが選び説明することで、多種多様な見方からの課題解決の方法を比較検討することができる。 ○グラフや地図、人物の言葉などを紹介する資料に「読み解こう」「歴史の技」という項目を随所に載せ、資料を見るポイントを示してさまざまな視点から資料を考察できるようになっている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○導入の「学習を始めよう」では、資料が大きく掲載され、生徒が自ら資料を読みながら、章の学習が見通しをもって進められるように工夫されている。 ○各章の「身近な地域の歴史を調べよう」では、「遺跡・古墳」「寺社」「街道・港」など特徴のある地域学習の例を紹介し、生徒自身の居住地域に合致した地域学習ができるようになっている。 ○本文とは視点を変えてとらえ直す「特設ページ」が設けられ、現代社会の諸問題と照らし合わせ、多面的・多角的に考察できるように工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○文献の史料は、原文のまま掲載されているもの（五箇条の御誓文など）もあり、生徒自身の既習内容を応用して、資料を読み解くことができるようになっている。 ○教科書とウェブサイトをリンクさせ、学習に役立つ様々な情報を得ることができる「まなびリンク」が設けられている。 	
表 記 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○本文の行間も大きめで、文章量はやや少なめになっている。一文も短めに整理されており、内容が煩雑にならないよう配慮されている。 ○1単位時間の見出しが生徒の興味・関心を引き出すようなタイトルが付けられている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○興味・関心を引き出しやすい学習テーマや資料を読み解くポイントなどを記載し、生徒が自ら取り組める課題や発問を多く取り入れており、主体的な学習がしやすいように配慮されている。 ○各ページの時代区分や各章末尾の「学習のまとめと表現」では、大きな年表による時代の整理など、歴史の流れを把握しやすいような配慮がされている。 ○学習課題が簡潔明瞭で生徒にわかりやすい。 	

教科【社会】・種目【歴史的分野】

書名 項目	社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き	46 帝 国
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きを1単位時間とし、導入、学習課題、本文で構成されている。また、学習内容を振り返る「確認しよう」「説明しよう」で構成されている。 ○「タイムトラベル」のページで、その時代の生活の様子をイラストで大観できるようになっており、視覚的に当時の人々が何をしているのかを把握しやすくなっている。 ○見開きページの左下に「小学校、地理、公民との関連」が載せてあり、学習内容における小学校の既習知識や地理・公民で応用できる語句などを確認できるようになっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きページの右端に「年表インデックス」が掲載され、学習している時代がいつ頃の時期のものなのかを把握しやすくなっており、歴史の流れや関連事項を整理しやすくなっている。 ○各章末尾の「章の学習を振り返ろう」で、章の中にある節ごとの課題にさまざまな視点の提示を行い、歴史的な見方・考え方を養えるようになっている。また、それを踏まえて話し合い活動を行い、深い学びにつなげられるようになっている。 ○「多面的・多角的に考えてみよう」のページで、ある歴史的事象を異なる立場からの意見を参考にしながら自分なりの解決方法を考察することで、歴史的事象に対して主体的な態度を育むとともに、多面的・多角的な見方・考え方を学ぶことができるようになっている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○文化史を学ぶページは、4ページにまたがって本文と資料が掲載してあり、内容を充実させている。日本の伝統や文化に対する理解をより深めることができるようになっている。 ○ページに散見されるコラムでは、「人権」「環境」「交流」「平和」というテーマを振り分け、「持続可能な開発目標（SDGs）」の視点を持たせることで歴史的事象から未来へとつながる視野を育むことができるようになっている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○文化史を学ぶページにおける写真や史料などが豊富に掲載されている。 ○地図やグラフ内の線は、点線や実線など色以外にも見分けられるようになっており、色覚判別に困難のある生徒でも使いやすいようになっている。 ○二次元コードを読み込むことで、「タイムトラベル」コンテンツにアクセスしたり、学習の理解を助ける動画等を閲覧できたりするように工夫されている。 	
表 記 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○本文の字数は少なめになっている。また、行間の間隔が大きく設定されているため、文章を読みやすく配慮されている。 ○太字の重要語句を簡潔にまとめる内容が多く、知識の整理がしやすくなっている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○歴史的な見方・考え方を養うための工夫が多く盛り込まれており、それらを十分に活用することで生徒の思考力・判断力・表現力の向上に役立てられる。 ○文化史（巻末の世界遺産の分布図なども含め）の史料が充実しているため、日本の伝統文化の理解に寄与することができる。 	

教科【社会】・種目【歴史的分野】

書名 項目	中学歴史 日本と世界	81 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">山 川</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きを1単位時間とし、導入の発問、本文、「ステップアップ」による振り返りで構成され、世界史も含めた歴史全体の流れをつかめるようにしている。 ○本文中の重要な学習項目となる太字の語句が、多く配置されている。 ○用語解説を同ページに記載することで、ページを変えることなく用語の内容を確認することができるようになっている。 ○各章の末尾にある「まとめ」のページでは、学習内容をマトリックスで整理する項目が設けられ、生徒自身が書き込むことで既習内容の復習と整理が視覚的に捉えやすくなっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○写真やグラフ、コラムなどの資料に関連する小課題（黄色枠）を提示し、資料からどんな情報を読み取れるか、生徒の思考を援助する配慮がされている。 ○各章の「歴史を考えよう」「歴史へのアプローチ」のページで、ポイントをしぼったテーマや一つの作品にクローズアップしたテーマを設定する学習を進めることで、歴史的な見方・考え方を様々な視点から深められるようになっている。 ○各節に「〇〇世紀の世界」のページを配置し、その節で学習した時代と世界史を横断的に比較することができるようになっている。日本史を世界における通史の一部として捉えられるよう配慮されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各ページの学習課題を複数設定している項目（学習課題下）があり、より多面的・多角的な視点から学習課題へ取り組むことができるようになっている。 ○「地域からのアプローチ」のページで、札幌・奈良・金沢などの日本の代表的な地域を紹介し、その地域における課題を複数設定することで焦点をしぼった地域学習の過程を行えるようにしている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○過去の法や人物の言葉などを紹介するコラムで原文ではなく、口語訳で記載している。資料を生徒が抵抗なく読めるよう配慮されている。 ○写真・図表資料などは少なめに掲載されている。資料の膨大化によって生徒の集中力が散漫にならないようになっている。 	
表 記 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○「です・ます」調ではなく、「である」調を文末に用いている。文字数をおさえることによって、本文における情報量が多くなっている。 ○色遣いをおおむねシンプルに配色することで、生徒の集中力を持続させやすいよう配慮されている。 ○各章のはじめに、章で学ぶ時代の日本と世界の出来事の帯年表が掲載されている。また、章に関係する写真が上下に分けて時代順に示されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○全般的に世界史の学習項目が充実しており、日本史との関連を結びつけるための知識の定着がしやすいよう配慮されている。 ○「流れをつかむ」「歴史を考える」「世界史を知る」という3つのポイントで構成されている。また、高校につながる教科書として構成・叙述の流れや資料等が工夫されている。 	

教科【社会】・種目【歴史的分野】

書名 項目	中学社会 歴史的分野	1 1 6 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">日 文</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きを1単位時間とし、導入資料、学習課題、本文、「確認」で構成され、「確認」では学習活動や自分の考えを説明させる問いが提示されている。 ○文化史・生活史のページでは1ページすべて、もしくはそれ以上を文化財の写真や解説に充ててあり、学習する文化財の特徴を捉えやすくなっている。 ○各編の末尾の「学習の整理と活用」では、その編で学習した知識を表でまとめる作業を取り入れ、表を完成すれば視覚的に基礎的な知識の確認ができるようになっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各ページの左下や各編の末尾「学習の整理と活用」などに小年表を設け、各時代の出来事の移り変わりや関連を整理しやすいようになっている。 ○章末「とらえよう！○○の特色」では、習得した知識を関連させ、時代の特色を考え説明したり、話し合いや意見交換したりする学習活動が設けられている。 ○見開きの「見方・考え方」では、学習課題の解決に向けた手がかりが示され、「深めよう」では、問いを通して学習課題の理解が深められるように工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各編の冒頭に「地図で見る世界の動き」のページを設け、その編における歴史的事象を地図上で示して空間的理解を促すとともに、地理的分野との関連を位置付けている。 ○地域や先人の知恵に学ぶことができるように、身近な地域の歴史や文化財・先人を紹介するコラムや特設ページが多く設けられている。 ○各編の末尾に「でかけよう！地域調べ」のページを設け、博学連携や環境問題など様々なテーマでの地域学習を紹介して、地域学習への意欲を高めるようになっている。また、地域学習の流れも分かりやすく列挙してある。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○写真や文化財のみのページを設けることで、寺院や美術作品などのより細かな部分を観察することができるようになっている。 ○資料の下に「資料活用」のポイントを示し、その資料のどういった点に注目して考察すればよいかを明確にしている。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○資料などに使われる複数の記号やマークを、色分けだけではなく、点線や実線などとも区別することで、色覚判別に困難のある生徒でも見分けられるようにしている。 ○本文中の一文は短く区切られ、説明が煩雑にならないよう配慮されている。また、文字も若干大きめになっており、本文の文章は見やすくされている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○年表を多く配置することによって、時代区分の移り変わりや年代ごとの出来事の整理がしやすくなっている。 ○資料を大きめに配置することで、視覚的に理解がしやすいように配慮がされている。詳細な学習に陥ることがないように、学習内容の焦点化を図るための配慮がなされている。 	

教科【社会】・種目【歴史的分野】

書名 項目	[最新] 新しい日本の歴史	227 育 鵬
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見通しをもちながら学習を進めることができるように、見開きごとに資料を使い問題解決できるような学習課題が明示されている。 ○各章の末尾「学習のまとめ」のページで、年表、地図、グラフなどの資料を活用した問題を多く設定し、既習内容の基礎知識の確認だけでなく、資料を読み取る技能も習得できるようになっている。 ○本文中の補足説明を該当ページに記載することで、即座に不明瞭な知識の確認が行えるようになっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各章の「歴史のターニングポイント」で、あるテーマに関して是非を考察する活動をすることで、1つの歴史的事象を多面的・多角的にとらえることができるようになっている。 ○章末「学習のまとめ」では、歴史的な見方・考え方を働かせて、時代の特色を自分の言葉や図で表現する学習活動が設けられている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各章冒頭の「○○の世界へようこそ!」では、課題と主体的に向き合うための設問があり、歴史にかかわる諸事象についての課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養えるように工夫されている。 ○授業テーマごとに学習課題を分かりやすく設定し、見開きの末尾に授業テーマのまとめを行う言語活動（「～をまとめましょう。」「～を説明しましょう。」）を提示することで、生徒も見通しが立てられるようになっている。 ○各章の「なでしこ日本史」で、歴史上活躍した女性の功績を掘り下げることで、ジェンダー教育の視点も考慮されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○写真やグラフなどの資料は、各ページに多めに配置されている。また、資料内の文字は見やすくするため、濃く表記されている。 ○「日本の美の形」「歴史絵巻」等のページは、生徒が視覚的に興味をもって取り組めるように工夫されている。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○授業テーマの数字を章や節ごとに1～5、6と小分けにせず、1～78の通し数字で表記している。授業進度が明確にされており、生徒が達成感を味わいやすいようになっている。 ○各章の章扉に「歴史絵巻」「歴史モノサシ」が掲載され、歴史の大きな流れと現在の学習範囲が確認できるように工夫されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な問題形式による「学習のまとめ」などから、基礎的な知識や技能の定着が行いやすいよう配慮されている。 ○学習内容の理解を深める「歴史ズームイン」、多面的・多角的に考える視点を提示する「歴史ビュー」、歴史上の人物の活躍を紹介する「人物クローズアップ」等のコラムが設けられ、学習に具体性や発展性をもたせるように配慮されている。 	

教科【社会】・種目【歴史的分野】

書名 項目	とともに学ぶ人間の歴史	229 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">学び舎</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○6部、10章からなり、部を貫く学習課題があり、章のあと・部の終わりに章をふりかえる・部の学習のまとめが設けられている。 ○各章の末尾「第○章をふりかえる」のページで、年表や地図を使った問題を掲載し、その章の学習を時代の流れや地理的な見方から復習できるようにしている。 ○各ページ冒頭の「フォーカス」に、学習テーマに関する人物、場所、事象のコラムや補足説明を載せ、学習テーマの予備知識が得られるようになっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「章の振り返り」では、歴史的事象を様々に関連付けさせたり、意見交換をさせたりする問いが設けられている。 ○各ページの末尾に、その学習テーマにかかわるコラムを掲載し、本文とは違う視点から歴史的事象を考察できるようになっている。本文での主体的な見方と、異なる視点からの歴史的な見方・考え方を養うことができるようになっている。 ○各章の冒頭にその時代の地図を見開きページで紹介し、該当する時代における当時の国の位置や国際関係を把握でき、横断的な学習ができるようになっている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各ページの学習テーマが生徒の興味・関心を引きやすく、授業冒頭での導入で発問として応用しやすい。 ○多くのページに地図を掲載しており、学習テーマに関連する地理を同時に学習できる。歴史的分野と地理的分野を結び付けて学習できるようになっている。 ○現代史を充実させ、歴史を今日の課題と結び付け、より良い社会の実現に向けて考えられるようにし、公民的分野につなげられるように工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○典型的な資料ではなく、専門性の高い資料を掲載しているページが多く、資料集などと合わせると多様な資料の比較ができるようになっている。 ○側注・グラフ・資料等から、歴史的事象や課題について多面的・多角的に考えられるように工夫されている。 	
表 記 ・ 表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○見開きに生徒の関心を引き出すタイトルと見通しをもつための学習課題が示されている。 ○色遣いをおおむねシンプルに配色することで、生徒の集中力を持続させやすいよう配慮されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書の紙面は、A判が採用されている。 ○生徒の主体的な学びの実現を目指した図版や記述の工夫がされている。 ○女性や子供等、様々な分野・階級の人びとの生活を学ぶことで、誰もが個人として尊重し合える社会について考えを深められるように配慮されている。 	